1BL

2022年度

国 語 入 試 問 題

（2022年２月５日実施）

座 席 番 号									

［注　意］

１．解答はすべて「解答用紙」の所定の欄に記入してください。
２．問題用紙および解答用紙は持ち帰ってはいけません。
３．使用用具は、黒鉛筆またはシャープペンシル（H、F、ＨＢ、B）、消しゴム、鉛筆削り（電動式・大型のものは不可）とし、それ以外の使用は認めない。

解答用紙はマークセンス方式および記述式です。

１．解答用紙は、汚したり折り曲げたりしないこと。
２．マークの記入に際しては、解答用紙に示されたマーク記入例に従って黒鉛筆またはシャープペンシル（H、F、ＨＢ、B）で正確に記入すること。
３．記入間違いは、消しゴムで完全に消してから記入すること。
４．座席番号記入欄には座席番号を、解答欄にはマークを記入する、あるいは記述すること。
氏名記入欄には受験票記載通りに、氏名・フリガナを記入すること。

問題Ⅰ　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

美術館に行って絵を見ていると、周りの人びとのふるまいのなかに、顕著な行動パターンが二つあることに気づく。誰しもお目当ては絵である。だがその絵の傍らの壁には、作者名と作品のタイトルその他の書かれた小さなプレートが貼られている。名詞を羅列しただけの無愛想な表示なのだが、これがなかなか気になる代物で、このプレートに対する態度で、観衆たちは二群に分かれるように見える。この二群の人びとを仮に、教養派と審美派と名づけることにしよう。

教養派とは、絵を見るよりも早く、真先にプレートをのぞき込み、誰が画いた何という絵なのかを確かめる。うるさい観客ならば、更に制作年代にも注目するだろう。教養派の人びとは、これらを頭に入れた上で、おもむろに絵に取りかかる。プレートから得られるこれらの知識が、その絵を理解し観賞する上で不可欠のものと考えているからに相違ない。教養派と名づける所以である。

それに対して、審美派は次のようにふるまう。かれ／彼女はプレートには目もくれない。静かに絵だけを見つめ続ける。そして次の絵に移ってゆく。作者やタイトルは既に知っていたのかもしれない。しかし、どの絵の前でもその態度は変わらない。つまり、明確な意志なのだ。教養派の姿を目にしたあとでは、かれ／彼女の禁欲的な姿勢は依怙地とさえ見える。落語に出てくる蕎麦通、いつもつゆを(a)ワズかにつけて蕎麦をすすってきたかれが、(1)いまわの際に、「ああたっぷりたれをつけて蕎麦が食いてえ」と言ったあの蕎麦通のやせ(b)ガマンに、どことなく似ていないこともない。少なくとも、(2)そこにはっきりとしたこだわりが垣間見える。

タイトルに対する態度についてのこの観察は、別の証言からも裏づけられる。わたくしがこの問題に取り組んだ最初は、一九九三年度の慶應義塾大学における美学(c)ガイロンの授業の際のことだった。その最初に、わたくしは聴講生たちを対象として、ある実験めいたことを試みた。誰も聴いたことがないと思われる音楽を二曲聴かせて、それにタイトルをつけてもらう。またその経験に則して、どのようにしてタイトルをつけたのか、タイトルをつけることにどのような意味があると思うか、また逆に観賞者の立場においてタイトルをどのように受け止めているか、などを書いてもらった。

［A］や、［B］などについても、興味深い結果が得られたが、ここでは、右の美術館の観客と同じく、［C］に関する証言を取り上げよう。学生たちのなかにも、教養派（タイトル肯定派）と審美派（タイトル拒絶派）の対立がはっきりと見られた。

まず観賞体験においてタイトルという情報を［ア］に受け止める意見としては、

《タイトルを知らないと不安になる》、

《作者との一致を確認したい》、

などがあり、最も(d)カゲキな意見としては

《タイトルはもとより、作品の解説をも読んでおくべきだ。それは作者に対する礼儀である》

というものもあった。この決然とした考えのおおもとは、「作者との一致」を求める気持ちと通じているように思われる。作者との一致とは、作者の表現意図に沿って作品を観賞するということであろう。《タイトルを知ることによって、観賞体験がより深いものになる》という意見もまた、おそらく、

作者の意図に即して観賞したときに得られる効果を言っているのであろう。その作者との一致を「確認したい」というのは、自分の観賞体験が「間違っていない」という安心を得たいからに相違ない。こうした「一致」が「作者に対する礼儀である」というのは面白い。美学の標準的な通念に反しているからである。近年の美学上の常識的な教えによれば、作品を観賞するときに作者の制作意図は考えなくてよろしい、作品だけが問題である、それを感ずるままに味わい、細心にしかし虚心に解釈するのが正しい、と言われている。これは作者の不在の主張だ。それに対して、礼儀は人間関係に関わることである。藝術観賞において「作者に対する礼儀」を重んずるというのは、作者の［イ］を認めることにほかならない。そのとき藝術観賞は、作者と観賞者の間の、ひととひとのコミュニケーション行為と考えられている。観賞者たるもの、相手の意図を確認しておくのは当然の態度ということになる。

《タイトルを知らないと不安になる》というのは、消極的肯定と呼ぶべき意見だが、これも作者の意図との一致を語っているのかもしれない。しかし、あるいは、およそ(3)なまえというものにまつわる不思議な魔力を言い当てているのかもしれない。藝術作品に限らない。［Ⅰ］ひとでも、花でも、動物でも、強く関心をひくものに出会うと、われわれはどうしてもその名を知りたくなる。名を知るまでは、わたくしを魅了したそのものを本当につかまえたと思うことができない。そこにある「不安」が生まれる。青春の日々、見初めた異性が、どこの誰なのか分からなければ、その名を知りたいという欲求は切実であろう。［Ⅱ］そして、その名を知ったとき、その名は魔力を喪うどころか、ますます輝いてくるのではないか。平凡な名であってもかまわない。［Ⅲ］彼女あるいはかれについて認めた美点のすべてが、その名に響き合う。(注)スタンダールは恋愛感情に「結晶作用」を認めたが、恋人の名は結晶の核となる。もちろん、藝術作品のタイトルにこのような結晶作用はないだろう。［Ⅳ］どれほどよく知っている作品でも、そのタイトルを知らない限り、どことなく落ち着かないものなのである。［Ⅴ］

しかし、(4)《タイトルを知らない不安》とは逆の不安を洩らすひともいる。すなわち、タイトルを知って音楽を聴く方が作品の理解が深まると認めつつ、しかし、そのとき言葉に従って音楽を聴いているのではないか、という不安がよぎる。不安なのは、それが音楽の聴き方として《不純》なものと思えるからである。一方には、そう思いつつ、それでもタイトルは絶対必要だと言うひともいる。しかし他方には、決然として審美派を宣言するひともいる。《タイトルは言葉であり、この言葉は観賞体験を方向づけ、限定してしまう》からだ。タイトルを無視して、《自由な空想》を展開することこそ、真の、そして純粋な作品観賞だ、というのである。

以上が、わたくしの試みた実験つきアンケートの成果のあらましである。この結果に、わたくしは本当に感心した。(5)タイトルにまつわる美学的な問題点を、余すところなく映しだしているからである。このとき出席していた一〇〇人以上の学生諸君の大半は美学美術史学専攻で、その殆どは二〜三年生だった。つまり、右のように答えてくれた人たちは、特に藝術に対して強い関心をもち、いわゆる「藝術的感性」においても人並み以上のものに恵まれていた、とは言えよう。加えて、この年代の若者は知的な好奇心も(e)オウセイで、かなりの量の本を読んでいる。しかし、通例かれらの読書傾

向は相当に偏っていて、ここで問題となるような美学理論については殆ど知らないのではないか、とわたくしは見ている。右に紹介したかれらの意見は、知識ではなく経験を背景として提起されたものだろう。そのようにして披瀝（ひれき）された意見のなかに、ある美学説が反映しているとすれば、それは、かれら／彼女らの経験のなかに、言い換えればわれわれの社会生活のなかにその美学が浸透していた、ということにほかならない。

絵画のプレートにせよ作品のタイトルにせよ、いずれにしても瑣末（さまつ）なものと見えるかもしれない。だが、プレートが《気になる》ということ、またタイトルの知識を必要と思いつつ、そこに、ある《不純さ》を感じ、殆ど《後ろめたさ》を覚えているということのなかには、まぎれもなく、西洋近代美学の影が認められる。わたくしは主として、タイトルを拒絶する審美派の態度に注目しているのだが、近代美学の影響下にあるという点では、教養派も変わらない。

（佐々木健一（けんいち）『タイトルの魔力』）

（注）スタンダール……フランスの小説家（一七八三～一八四二）。

問1　傍線部(a)～(e)と同じ漢字を含む語を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、(a) 1 、(b) 2 、(c) 3 、(d) 4 、(e) 5 。

(a) ワズか　1

① あの人はキンゲンな性格だ。
② キンベンに働いて貯蓄にはげむ。
③ 食料をキントウに配布する。
④ 第一試合はキンサで勝利した。
⑤ 妹はモッキンを演奏していた。

(b) ガマン　2

① 助言を聞かずガリュウで押し通す。
② 花見というのはフウガな催しだ。
③ チューリップの球根がハツガする。
④ 食糧不足によってキガが生じる。
⑤ 優勝をシュクガする会に参加した。

(c) ガイロン　3

① しみじみとしたカンガイにふける。
② 不正な役人を民衆がダンガイする。
③ 人生を切り開くキガイのある人物だ。
④ 不幸なキョウガイを乗り越えて成功した。
⑤ あの人はガイハクな知識を有している。

(d) カゲキ　4

① ヨカを利用して外国旅行を楽しむ。
② 軽はずみな決断は将来にカコンを残す。
③ カブンなお言葉をいただき恐縮する。
④ 事件のカチュウに巻き込まれる。
⑤ レンカで高品質な商品を売り出す。

(e) オウセイ　5

① 子どもたちはイッセイに走り出した。
② 大会の初めに選手センセイが行われた。
③ セイキョした友人への弔辞を読む。
④ 被害者が損害賠償をセイキュウする。
⑤ 宴会はセイキョウのうちに終わった。

問2　傍線部(1)「いまわの際」の本文における意味として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、 6 。

① 死に臨んだとき
② 油断したとき
③ 高齢になったとき
④ 改心したとき
⑤ 本心を問われたとき

問3　傍線部(2)「そこにはっきりとしたこだわりが垣間見える」とあるが、「はっきりとしたこだわり」とはどのようなこだわりか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、 7 。

① なるべく多くの知識を踏まえて作品を観賞するべきだということこだわり。
② 余計な知識に惑わされないで作品を観賞するべきだということこだわり。
③ 不正確な知識に頼ることなく作品を観賞するべきだということこだわり。
④ 自分の感性と知識だけを頼りに作品を観賞するべきだということこだわり。
⑤ 主観をなるべく排除して客観的に作品を観賞するべきだということこだわり。

問4　空欄 A ～ C に入る語句の組み合わせとして最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、 8 。

① A＝二つの楽曲に対して与えられたタイトル
　B＝そのタイトルづけの原理
　C＝そのタイトルを与えられた二つの楽曲

② A＝タイトルづけの原理
　B＝二つの楽曲に対して与えられたタイトル
　C＝タイトルをつける立場から見た作品

③ A＝二つの楽曲に対して与えられたタイトル
　B＝そのタイトルづけの原理
　C＝作品を観賞する立場から見た二つの楽曲

④ A＝タイトルづけの原理
　B＝そのタイトルを与えられた二つの楽曲
　C＝作品を観賞する立場から見たタイトル

⑤ A＝二つの楽曲に対して与えられたタイトル
　B＝そのタイトルづけの原理
　C＝作品を観賞する立場から見たタイトル

問5　空欄 ア ・ イ に入る最も適当な言葉を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、ア 9 、イ 10 。

ア 9
① 定型的　② 批判的　③ 論理的
④ 感覚的　⑤ 肯定的

イ 10
① 経験　② 無化　③ 現前
④ 努力　⑤ 判断

問6　傍線部(3)「なまえというものにまつわる不思議な魔力」の説明として**正しくないもの**を、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、11 。

① 強い関心をもった対象の「なまえ」を、どうしても知りたいと思わせるような魔力。
② 「なまえ」を知ることで関心が失われるのではなく、ますます強くなるような魔力。
③ 「なまえ」を知らなければ対象を把握した実感が得られないと感じさせるような魔力。
④ 「なまえ」を知ることによって、よりいっそう人を混乱や惑いにいざなうような魔力。
⑤ 藝術作品や自然物だけでなく、恋愛の対象である相手においてもはたらくような魔力。

問7　次の文は本文の一部である。どこに入れるのが最も適当か。本文中の Ⅰ ～ Ⅴ の中から一つ選びなさい。解答番号は、12 。

しかし、なまえの一つである以上、ある魔力をもっていることは、間違いない。

① Ⅰ
② Ⅱ
③ Ⅲ
④ Ⅳ
⑤ Ⅴ

問8　傍線部(4)「《タイトルを知らない不安》とは逆の不安」とあるが、どのような「不安」か。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、13 。

① 自分は教養派であると感じてはいるものの、まだ純粋に教養派の立場に立てていないのではないかと疑うところから生まれてくるような不安。
② 教養派の立場を維持しながらも、実は審美派の立場の方が藝術の観賞において純粋なのではないかと疑うところから生まれてくるような不安。
③ 自分は審美派であると自認しているが、実は審美派の藝術の観賞のやり方はどこか不純ではないかと疑うところから生まれてくるような不安。
④ 審美派の立場を保持してはいるものの、実は他者の言葉に従って藝術を観賞するのは不純な行為ではないかと疑うところから生まれてくるような不安。
⑤ 自分は教養派だと自認していながら、実際には審美派のような不純な芸術観賞をしているのではないかと疑うところから生まれてくるような不安。

問9　傍線部(5)「タイトルにまつわる美学的な問題点」とあるが、これは具体的にどのようなことか。次の文の［　　］にあてはまるように、「意図」「作品」の二語を用いて、四十五字以内で説明しなさい。解答番号は、［14］。

審美派だけでなく教養派も、［　　］の影響下にあるということ。

問10　本文の内容に合致するものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、［15］。

① 作者の表現意図に沿って作品を観賞するのが作者に対する礼儀であると考える人びとは、藝術観賞を、人間同士の間のコミュニケーション行為の一種だと解釈している。

② 作品のタイトルを知らないと不安になるという意見の持ち主は、タイトルという情報の価値を非常に重く受け止め、作者の意図との一致を不可欠のものと考えている。

③ 知的な好奇心をもっていてたくさんの本を読んでいる人びとは、藝術を観賞するときに自分自身の経験や社会生活よりも、むしろ美学説の理論を重視することが多い。

④ 藝術観賞とは、絵の作者名などを記したプレートや音楽作品のタイトルなどから得た知識をもとに空想を展開することだという考えは、近代の美学によるものである。

⑤ 絵を見るときに、作者名などが書かれたプレートを見ようとしない人びとが存在するが、それは作品や作者に関する知識を既にもっているからである。

問題Ⅱ　次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

私は長くカウンセリングをしてきました。人の話を聞くのがカウンセラーの仕事なのですが、ただ黙って話を聞いていればカウンセリングになるわけではありません。話を聞く時に、話されていることに注意深く耳を傾けることが大切であることはいうまでもありませんが、絶えずなぜ今この人はこの話をしたのだろう、次はどんな話になるだろうかと推測しながら話を聞くのでなければ話を聞くことにはならないのです。

もちろん、思いがけない展開になることもあるのですが、予想していたような話にならないとしたら、相手の話を聞く時に自分の物差しを当てようとしていたからです。

この物差しのことをアドラー(注1)は「(1)ライフスタイル」と呼んでいるのですが、こんな時にはこんなふうに感じ、こんな行動をとるだろうと自分の尺度で相手の言葉を理解していることが多いのです。自分や他者をどう見るか、また、何か問題を前にした時にそれをどう解決していくかを、人は人生のわりあい早い時期に自分で決めるとアドラーは考えています。アドラー自身は四、五歳と考えていますが、十歳前後ではないかと私は考えています。それから後は大きくライフスタイルを変えることはありません。自分の感じ方、考え方が唯一絶対だと思っている人は、他の人を理解することは難しいですが、その理解が間違っていることにも気づかないことがあります。他の人が自分とは違う感じ方、考え方をしているなどと思わないのです。

ところが、誰かと話している時に、注意深く話を聞けば、自分だったらそんなふうには考えないということを相手がいうことに(a)オドロくような経験をすると、自分にとっては当たり前でも、相手は違う感じ方、考え方をしていることに気づきます。

相手を理解するためには、「もしも自分だったら」と考えるのではなく、「もしも自分がこの人だったら」と可能な限り相手の立場に身を置いて考えることが必要です。アドラーはこれを「同一視」あるいは「共感」といっています。

(2)このような意味での共感は本を読む時にも必要です。著者と自分のライフスタイルが違うことにまず気づかなければ、著者の考え方を正しく理解することはできません。

また、話を聞いていると、大切なことなのに相手が話さないことがあります。大抵は必ずしも意識的でないのですが、話されないことがあると私はジグソーパズルでいつまでもピースが見つからない時のような気持ちになります。

カウンセリングの時には来談者の考えを批判することはありません。しかし、本を読む時であれば著者の考えに同意する必要はないので、「なるほど」などと感心して読んでいては、著者と対話をすることはできません。もちろん本に書かれていることを正しく理解していなければ批判することもできないので、相手を理解する、少なくとも理解することに努めることが先決です。

著者と自分は対等なのですから、著者の書いていることを鵜呑(うの)みにしなくてもいいのです。私は長年アドラーやプラトンなどの翻訳をしてきましたが、翻訳をしている時には絶えず著者と対話をしています。

「これはおかしいのではないですか」とか「これは(b)ムリスジではないですか」と呟きながら翻訳をするのは、なかなか楽しいものです。

現実の生活の中では先生や上司に反論することは難しいと思う人もいるでしょうが、相手が間違ったことをいえば、それを黙って聞いていてはいけません。それが先生や上司であっても同じです。

反論してもいいのですし、反論するべきなのですが、もしも日常生活でそうすることができないのであれば、本を読むことが反論をするトレーニングになります。幸い、著者は反論しても怒ったりしませんから、安心して反論することができます。

もちろん、これは(3)本の限界でもあります。著者はいいっ放しで、読者はおかしいと思っても直接反論できないからです。しかし、今は反論しても著者が直ちにいい返したりしないことを日常生活では反論できるようになるためのトレーニングに使えると考えましょう。

現実の生活で、相手がいっていることが間違いであることに気づいても、それを指摘すると相手が怒り出すとか、指摘したことで自分のことをよく思われないのではないかと恐れて何もいわなければ、相手のためにもなりません。

政治家が答弁の際に漢字を読み間違うのは、誰も教えないからです。おそらくは、何度も間違いを繰り返す政治家に対して、まわりにいる人は一度は間違いを指摘したことはあったのでしょう。その指摘を素直に受け止めれば、同じ間違いはしないでしょうし、今後、他の字を間違った時にも、間違うことが予想される時にもまわりの人は指摘するでしょう。

ところが、誤りを指摘したのにそれを率直に認めてくれなかったとか、それどころか、指摘されることを嫌い、指摘した人に当たり散らされたというような経験をすれば、まわりの人は二度と誤りを指摘しようとはしなくなるでしょう。

反論の話に戻るならば、実際の対話と違ってありがたいのは、本を読んでいる時には著者との対話をいつでも中断できるということです。また、必要があれば前のページにさかのぼることもできます。

これはおかしいと思った時、実際の話の中ではもう次の話に移っているので間違いかどうかをたしかめることはできませんが、読書の場合は読むのを中断して確認することができますし、どこが間違っているのかゆっくりと考えることができます。

A、実際の話でも、質問し、それへの答えに反論することはできるはずですが、それができないのであれば、本を読む時に質問、反論するトレーニングを積んでおけば、詭弁(きべん)を(c)ロウする人にも反論できるようになります。

アドラーはそれほど昔の人ではなく、私たちの感覚でいえば明治生まれのおじいさんですが、まだまだ時代が追いついていないと思えるような新しいことをいう一方、もはや今の時代には(d)ツウヨウしないこともいっています。B、家事は女性がした方がいいとか、結婚は人類のためになされるというようなことです。時代と社会の限界を感じます。

しかし、ただ現代と比較して古いと切り捨てることはできません。(4)言葉尻を捉えるのではなく、著者がどう考えてこのような結論に達したのかを読んでいかなければなりません。古いと切り捨ててしまうと、(5)大抵の古典といわれるような本は読めないことになります。

先に、相手の立場に身を置くことという意味での共感が本を読む時に必要だと書きましたが、そうした上で、さらに自分だったらどう考えるだろう、どうするだろうと思考した時に、この著者がいっていることがおかしいことに気づきます。

また、誰かの考え方を無批判に受け止めるのではなく、おかしいことがわかるためには、私の場合はプラトン(注2)哲学やアドラー心理学を学んできたことが役に立ちました。もちろん、プラトンやアドラーを無批判に受け入れたということではありませんが、自分流に考えるのではなく、「errare malo cum Platone」（「むしろプラトンとともに誤ることを望む」）と古代ローマの哲学者キケロがいっているように、判断や(e)ヒョウカする際の規範とでもいうべき考え方を知っていると、本を読んだり、人の話を聞いたりする時にどう考えていいか見当もつかないというようなことはなくなってきます。

相手が話していることがおかしいと思った時とか、間違いをした時とか、話をしている途中で、何か思いつくことがあります。実際の対話の場面では何か思いついても、相手を放っておいて自分の思考の中に入っていくことはできませんが、読書の場合は著者は目の前にいないので、この場合も本から離れて自分の思考の中に入っていくことができます。

そのような時には、本を読み続けていても、著者が述べている大事なポイントに赤線を引くよりは、読んでいる途中に思いついたことを欄外にメモすることの方が多くなりますし、その方が読書をする時に重要なことだと思います。本を読む時に傍線を引くか、メモを取るかというようなことについては後で考えます。

本はこのように(6)著者との対話なので、本を読むことでこれからの人生をどう生きるべきかを考えていくことができます。このような問いに直接答える、あるいは答えようとするのが哲学の本です。

突然、哲学という言葉を使いましたが、この「哲学」というのは、学問の名前としての哲学ではありません。「知を愛する」という本来の意味での哲学です。昆虫や鳥や花に興味を持った人は名前を知りたくて図鑑を調べるでしょう。何かについて知りたいと思って読む本は、知的好奇心を駆り立てられるという意味で(7)哲学の本であるといえます。

小説を読む時にも、ただストーリーを追うだけではなく、登場人物の生き方から少しでも自分の生き方を振り返ることができる本であれば、それも哲学の本といえます。

著者も、小説という枠組みの中で、登場人物の口を借りて、人生をどう生きるのかという問いに対しての自分の考えを読者に伝えたり、読者にあなたはこの人生をどう生きるのかと問うているのです。

（岸見一郎『本をどう読むか』）

（注1）アドラー……オーストリア出身の精神医学者（一八七〇～一九三七）。

（注2）プラトン……古代ギリシアの哲学者。

問1　傍線部(a)〜(e)と同じ漢字を含む語を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、(a) 16 、(b) 17 、(c) 18 、(d) 19 、(e) 20 。

(a) オドロく　16

① キョウイ的な身体能力を発揮する。
② 各自が資材をキョウシュツする。
③ 交易に関するキョウテイを結ぶ。
④ 自然の恩恵をキョウジュする。
⑤ 旅先の光景にキョウシュウを覚えた。

(b) ムリスジ　17

① 物体に対しキンイツに力を加える。
② キンカン日食の仕組みについて調べる。
③ 大掃除で床を丹念にゾウキンで磨く。
④ キンリョクが低下しないよう運動する。
⑤ 長い付き合いでキョウキンを開く仲になる。

(c) ロウする　18

① 徹夜で作業した学生のロウをねぎらう。
② 友人の前で意外な特技をヒロウする。
③ 人をグロウするのは学問的な態度ではない。
④ この詩の魅力はロウドクしてこそ分かる。
⑤ 書類の記載内容にイロウがないか確かめる。

(d) ツウヨウ　19

① 恩師からチュウヨウの精神を学ぶ。
② 再会が楽しみで気持ちがコウヨウする。
③ 傍聴した講演のヨウシをまとめる。
④ シャヨウ産業からの脱却を図る。
⑤ 面接合格者を課長にニンヨウする。

(e) ヒョウカ　20

① 泥じみがついた靴下をヒョウハクする。
② 選挙のためにトウヒョウバコを設ける。
③ 手を挙げたヒョウシにカップを倒した。
④ 初演舞台からコウヒョウを博している。
⑤ 同じドヒョウに立って物事を考えてみる。

問2　傍線部(1)「ライフスタイル」とあるが、それはどういうものか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、 21 。

① 相手の話の展開を正しく予想するための思考の様式。
② 相手の話と類似した事例を想起するための知識の体系。
③ 自分のものの見方や考え方を決める基準となる価値観。
④ 自分の考え方や感じ方の基準を形成する幼少期の経験。
⑤ 自分の考え方と感覚を唯一絶対の基準とする行動の様式。

問3　傍線部(2)「このような意味での共感」とあるが、どのようなことを指しているか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、 22 。

① 相手が、他の人を理解することが難しい人であるということを理解すること。
② 相手が自分とは違う感じ方や考え方をしているということを、理解すること。
③ 自分と相手の相違点ではなく、共通点を探すことで相手を理解すること。
④ 相手の感じ方や考え方に自分の身を置いて考えることで、相手を理解すること。
⑤ 相手の感じ方や考え方を、自分のものと照らし合わせることで相手を理解すること。

問4　傍線部(3)「本の限界」とは、どのようなことか。その説明として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、 23 。

① 著者がどれだけ注意深く書いても間違いを避けられないこと。
② 意見を相手に伝達できるのは著者の側だけだということ。
③ 著者の主張が読者に正しく理解されないことがあること。
④ どんな内容でも著者は読者から批判を受ける可能性があること。
⑤ 翻訳することでその本が元々持っていた意味が変わること。

問5　空欄 A ・ B に入る最も適当な言葉を、次の中からそれぞれ一つずつ選びなさい。解答番号は、A 24 、B 25 。

A　24
① ただし　② すなわち　③ むしろ
④ もちろん　⑤ いわば

B　25
① その上　② 従って　③ 例えば
④ 実は　⑤ 意外にも

問6　傍線部(4)「言葉尻を捉える」と似た意味を表す慣用表現として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、 26 。

① 木で鼻をくくる
② 横車を押す
③ やぶから棒
④ あげ足を取る
⑤ 二の句が継げない

問7　傍線部(5)「大抵の古典といわれるような本は読めないことになります」とあるが、それはなぜか。その理由として最も適当なものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、 27 。

① 時代や社会の状況に合う本だけを選んで読んでいると、内容の古い本はいつのまにか忘れ去られ、読みたくてもその本の入手がとても難しくなっていくから。
② その本が書かれた時代には新しいと思われていたことも、今の時代の私たちの感覚では当たり前のことになってしまっており、まったく新鮮さがないから。
③ 古典といわれるような本に使われている言葉や表現は古いため、現代の私たちには読みにくくわかりづらい表現となっているので、内容の理解が難しいから。
④ その本の背景となる時代や社会が現代とは異なるため、一見すると現代では意味をなさない内容が書かれていて、読む価値がないことになってしまうから。
⑤ 古典といわれるような本は、家事や結婚に関する古い考え方を前提として書かれており、現代の習慣や感覚とは合わないものとなっているから。

問8　傍線部(6)「著者との対話」とあるが、読書における「著者との対話」には、実際の対話にはないどのような利点があると筆者は考えているか。四十字以内で説明しなさい。解答番号は、28 。

問9　傍線部(7)「哲学の本」とあるが、筆者が考える「哲学の本」の例として**正しくないもの**を、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、29 。

① 知りたいことに対する答えが見いだせる本。
② 従来の学問としての哲学に批判的な本。
③ これまでの生活を振り返ることができる本。
④ 駆り立てられた知的好奇心を満足させられる本。
⑤ 将来のあり方について考えさせられる本。

問10　本文の内容に合致するものを、次の中から一つ選びなさい。解答番号は、30 。

① カウンセリングにおいて相手の話に「注意深く耳を傾けること」とは、無意識に隠されている大切なことを聞き取ろうとすることである。
② 読書においては著者の考えに同意する必要はなく、本の内容を自分の尺度で理解し、常に批判的に読むことが大切である。
③ 読書によって反論のトレーニングをすると、相手が間違うことが予想でき、それを的確に指摘できるようになる。
④ 本を批判的に読む前提として、まず著者の立場や生きた時代に身を置いて、その内容を正しく理解することが必要である。
⑤ 真の小説とは、登場人物の生き方から自分の生き方を問い直すような哲学的な読み方が可能な作品のことである。

国語（20220205）　解答一覧

大問	小問	解答番号	正解
Ⅰ	問１	1	④
		2	①
		3	③
		4	③
		5	⑤
	問２	6	①
	問３	7	②
	問４	8	⑤
	問５	9	⑤
		10	③
	問６	11	④
	問７	12	④
	問８	13	②
	問９	14	記述問題
	問 10	15	①
Ⅱ	問１	16	①
		17	④
		18	③
		19	⑤
		20	④
	問２	21	③
	問３	22	④
	問４	23	②
	問５	24	④
		25	③
	問６	26	④
	問７	27	④
	問８	28	記述問題
	問９	29	②
	問 10	30	④